

本 会 記 事

一般社団法人日本植物病理学会令和6年度第4回評議員会議事録

日 時：令和6年11月23日（土）

場 所：日本植物防疫協会ビル会議室（〒114-0015 東京都北区中里2-28-10）

出席者：

秋光和也, 有江 力, 中馬いづみ, 藤 晋一, 古屋成人, 濱本 宏, 曳地康史, 平塚和之, 磯貝雅道, 海道真典, 兼松聡子, 眞岡哲夫, 三瀬和之, 守川俊幸, 森山裕充, 中保一浩, 大里修一, 大島研郎, 大藤泰雄, 佐藤 衛, 志村華子, 須賀晴久, 鈴木信弘, 高垣真喜一, 竹下 稔, 東條元昭, 土佐幸雄, 津田新哉, 渡辺京子, 山次康幸, 吉田重信, 善林 薫, 一瀬勇規会長, 高橋英樹副会長, 染谷信孝庶務幹事長

以上評議員35名（定員53名, 欠席者18名：秋野聖之, 青木孝之, 萩原寛之, 長谷 修, 平田久笑, 稲田 稔, 小林括平, 児玉基一朗, 草場基章, 増田 税, 中島千晴, 篠原弘亮, 清水将文, 塩見 寛, 相馬 潤, 高野義孝, 竹本大吾, 柘植尚志）

幹事出席者：佐々木信光庶務副幹事長, 富高保弘庶務幹事, 埋橋志穂美庶務幹事, 北沢優悟会計幹事（欠席者：加藤寛副会計幹事）

開会の挨拶

I. 審議事項

1. 令和7年度功績者の推薦について（有江功績者推薦委員長）

- 名誉会員に川北一人氏, 夏秋知英氏, 夏秋啓子氏が推薦され, 承認可決された。
- 永年会員に伊藤進一郎氏, 諸見里善一氏, 西口正通氏, 田中秀平氏が推薦され, 承認可決された。

2. 令和7年度論文賞選定結果について（磯貝編集委員長）

- 令和7年度論文賞選定結果について, 以下の2報が選定されたことが報告され, 承認可決された。

Ayane Kanaizuka, Ryota Sasaki, Shuhei Miyashita, Sugihiko Ando, Kumiko Ito, Toshiyuki Fukuhara & Hideki Takahashi (2023) Isolation of *Burkholderia* jumbo phages and their utilization as biocontrol agents to suppress rice seedling rot disease. *Journal of General Plant Pathology* 89: 24–34.

Kenji Kubota, Yasuhiro Tomitaka, Tomio Usugi, Hiroyuki

Hamada, Hiroki Ito, Atsushi Kuwana & Shinya Tsuda (2023) Molecular characterization of a new geminivirus isolated from tomato with curly top symptoms and development of its infectious clone. *Journal of General Plant Pathology* 89: 100–108.

3. 令和7年度学会賞, 学術奨励賞の選定について（一瀬賞選考委員長）

- 委員会から選考経過が報告され, 学会賞に3名, 学術奨励賞に3名が選出されたことが報告され, 承認可決された。選考結果は以下の通りであった（氏名のABC順）。

学会賞：

白須賢氏「植物免疫システムの分子機構解明と病原体ゲノムに関する研究」

安戸雅宏氏「土壌伝染性の糸状菌および線虫の発生生態に関する研究」

吉岡博文氏「植物の免疫応答における活性酸素シグナルに関する研究」

学術奨励賞：

足助聡一郎氏「いもち病菌の菌群分化ならびにムギ類の抵抗性に関する分子遺伝学的研究」

湊菜未氏「虫媒伝染性病原体の発生生態と病原性に関する研究」

佐藤有希代氏「ネオライフスタイルを持つ糸状菌ウイルスの分子生物学的研究」

4. 令和7年度日本農学賞受賞候補者選定結果・推薦について（一瀬賞選考委員長）

- 委員会から選考経過が報告され, 久保康之氏を当学会より推薦することが報告され, 承認可決された。

5. 令和7年度事業計画書ならびに収支予算書について（染谷庶務幹事長, 磯貝編集委員長, 北沢会計幹事）

- 令和7年度の事業計画書と収支予算書について報告され, 承認可決された。

6. 令和6年度決算見込みについて（北沢会計幹事）

- 令和6年度の決算見込みについて報告され, 承認可決された。一瀬会長より, 旅費交通費について, 来年度は収支予算書で報告した通り, 対面開催を想定し計上していないものの, 今年度と同様に来年度の決算見込み次第で評議員会の対面開催への変更も検討可能である旨説明された。

7. 令和7年度大会準備状況について（秋光大会委員長）

- 令和7年度大会の開催スケジュールと準備状況が説明され、承認可決された。収支予算書について、開催側の負担、物価高騰の状況等を考慮し、コロナ前の相場に合わせた規模で計上している点が説明された。
 - 8. 第5回日韓植物病理学会合同シンポジウム準備状況について（曳地開催地委員長）
 - 第5回日韓植物病理学会合同シンポジウム準備状況について報告され、承認可決された。本シンポジウムにおける招待者に関わる経費について対応案が説明され、韓国側招待者をシンポジウムと大会の合同情報交換会に招待することが承認可決された。
 - 9. JABEE 対応委員会の廃止について（濱本 JABEE 対応委員長）
 - JABEE 対応委員会を廃止したい旨の提案があり、承認可決された。
 - 10. 仮払金増額申請（植物ウイルス病研究会）について（染谷庶務幹事長，北沢会計幹事）
 - 仮払金増額申請（植物ウイルス病研究会）について説明され、承認可決された。なお、植物ウイルス病研究会の運営経費について、関連評議員より補足説明された。
 - 11. 細則の改正について（染谷庶務幹事長，北沢会計幹事）
 - 大会・部会・研究会等仮払細則の改正について説明され、承認可決された。
- 大会・部会・研究会等仮払細則

現行	改正（案）
(仮払金額) 第2条 仮払する金額は以下のとおりとする。金額の変更は、評議員会の決議によって行う。 (1) 大会 100万円/年以内 (2) 部会 仮払額は、地域部会ごとの規模に応じて次のとおりとする。 (3) 関東部会及び関西部会 各20万円/年以内 (4) 北海道部会、東北部会、及び九州部会 各10万円/年以内 (5) 研究会及び談話会等 各8万円/年以内（ただし研究会及び談話会等が開催された年に限る） (6) 教育プログラム 50万円/年以内	(仮払金額) 第2条 仮払する金額は以下のとおりとする。金額の変更は、評議員会の決議によって行う。 (1) 大会 100万円/年以内 (2) 部会 仮払額は、地域部会ごとの規模に応じて次のとおりとする。 (3) 関東部会及び関西部会 各20万円/年以内 (4) 北海道部会、東北部会、及び九州部会 各10万円/年以内 (5) 研究会及び談話会等 各8万円/年以内（ただし未開催年の仮払は、幹事会でその可否を審議・決定する。） (6) 教育プログラム 50万円/年以内
附則 1. この細則は2020年4月1日から施行する。	附則 1. この細則は2020年4月1日から施行する。 2. この細則は2024年12月1日より施行する（令和6年度第4回評議員会において、第2条を改正）。

12. 規定の表記修正について（染谷庶務幹事長）

- ・評議員選挙規定の改正について説明され、承認可決された。

評議員選挙規程

現行	改正（案）
<p>(選挙権と被選挙権)</p> <p>第3条 この選挙の選挙権、被選挙権は正会員及び学生会員が有する。</p> <p>2 正会員及び学生会員であっても事業年度の4月1日時点で65歳に達している者は被選挙権を有しない。</p>	<p>(選挙権と被選挙権)</p> <p>第3条 この選挙の選挙権、被選挙権は正会員及び学生会員が有する。</p> <p>2 正会員及び学生会員であっても<u>選挙の実施される事業</u>年度の4月1日時点で65歳に達している者は被選挙権を有しない。</p> <p>(被選挙権を有する年齢を明確にするため変更)</p>
<p>附則</p> <p>1. この規程は、2020年4月1日から施行する。</p>	<p>附則</p> <p>1. この規程は、2020年4月1日から施行する。</p> <p>2. この規程は、2025年4月1日から施行する（令和7年度定時総会（2025年3月26日）において、第3条第2項を修正）。</p> <p>(修正日を追加)</p>

13. その他

- ・三瀬評議員より仮払い金の考え方について質問があり、一瀬会長より返金を前提に運営努力してもらいたい旨回答された。

II. 報告事項

1. 令和7年度副会長候補者選挙結果について（津田選挙管理委員長）

- ・令和7年度副会長候補者に眞岡哲夫氏が選出されたことが報告された。

2. 令和6年度日本農学進歩賞の受賞について（染谷庶務幹事長）

- ・本学会が推薦した荒添貴之氏が受賞したことが報告された。

3. 令和6年度大会開催報告（高橋前大会委員長）

- ・本年度の大会の収支決算が報告された。

4. 令和6～7年度部会・研究会等の開催準備状況（染谷庶務幹事長，北沢会計幹事）

- ・令和6～7年度部会・研究会等の開催準備状況について報告された。

5. 令和8年度大会準備状況について（一瀬会長，海道評議員）

- ・令和8年度の本大会を摂南大学枚方キャンパス（大阪

府枚方市）において開催することおよび準備状況について報告された。

6. 令和9年度大会開催地について（兼松北関東地区理事）

- ・令和9年度の本大会を2027年3月25日（木）～27日（土）に、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター（新潟県新潟市）において開催することおよび大会委員長が新潟大学の佐野義孝氏であることが報告された。

7. 編集委員会報告（磯貝編集委員長）

- ・英文誌および和文誌の投稿状況や受理状況およびインパクトファクター値などについて報告された。

8. 病名委員会報告（佐藤病名委員長）

- ・病名委員会報告として病名目録の発行状況および本学会による病名データベース構築の準備状況などについて報告された。

9. 国際化対応委員会報告（有江国際化対応委員長）

- ・第20回国際植物保護会議（IPPC 2024）、第8回アジア植物病理学会（ACPP 2024）などについて報告された。

10. 将来問題検討委員会報告（一瀬将来問題委員長，高橋副会長，染谷庶務幹事長）

- ・JGPPのオープンアクセス化検討状況，大会輪番制の検討状況，賞選考方法，賞状の印刷での作製に変更すること等について報告された。

11. 技術士対応委員会報告（濱本技術士対応委員長）
 - 令和6年度、4名が技術士に合格したことが報告された（通算165名）。また、技術士試験対策セミナーの開催予定（香川大会、詳細未定）について報告された。
12. ダイバーシティ推進委員会報告（中馬ダイバーシティ推進委員長）
 - 第2回ダイバーシティセミナーの開催報告、第3回ダイバーシティセミナーの開催予定、全国大会における託児関連窓口、ダイバーシティ委員会ホームページ開設、男女共同参画学協会活動報告、学会員の男女比等について報告された。
13. 広報委員会報告（富高庶務幹事）
 - 感謝状贈呈、学会ホームページのリニューアルについて報告された。
14. 日本農学会関連報告（染谷庶務幹事長）
 - 2024年9月9日に開催された2024年度第2回日本農学会運営委員会の主な議事内容について報告された。
15. 日本微生物学連盟報告（一瀬会長）
 - 2024年8月7日に開催された第32回日本微生物学連盟理事会の議事内容について報告された。特に、来年度以降、野本賞へ当学会としても受賞候補者を推薦する方向とすることが説明された。
16. 3学会会長懇談会報告（一瀬会長）
 - 2024年11月22日に開催された3学会会長懇談会の議事内容について報告された。
17. 協賛依頼（報農会）について（染谷庶務幹事長）
 - 2024年9月25日に開催された第39回報農会シンポジウムに協賛したことが報告された。
18. 日本植物防疫協会との業務委託契約更新について（染谷庶務幹事長）
 - 前年と同内容で業務委託契約の更新を行ったことが報告された。
19. その他
 - 特になし

一般社団法人日本植物病理学会令和6年度第3回理事会議事録

日 時：令和6年11月23日（土）17時10分～17時25分
 場 所：日本植物防疫協会ビル会議室（〒114-0015 東京都北区中里2-28-10）

出席者：

理事：一瀬勇規会長（代表理事）、高橋英樹副会長（代表理事）、秋野聖之（オンライン）、有江 力、藤 晋一、平塚和之、兼松聡子、須賀晴久、竹下 稔、吉田重信

以上理事10名（現員12名、欠席者2名：児玉基一郎、高野義孝）

監事：濱本 宏、大島研郎、渡辺京子

以上監事3名（現員3名、欠席者0名）

オブザーバー：染谷信孝、佐々木信光、富高保弘、埋橋志穂美、北沢優悟（幹事5名）

審議事項：

1. 令和7年度事業計画書および収支予算書について
2. 令和6年度第4回評議員会の審議事項の確認
3. その他

議事経過の概要

11月23日、対面式にて開催された令和6年度第4回評議員会の終了後、引き続き評議員を兼任する理事10名、監事3名が参加していることを確認した。

定款第32条により、一瀬理事が議長となった。理事および監事の出席者数から、定款33条の規定を満たしており、本会の成立を報告した。

1. 第1号議案 令和7年度事業計画書および収支予算書について

議長より、資料に基づき、令和7年度事業計画書および収支予算書の説明がなされた。議長の指示により、オブザーバーの染谷庶務幹事長および北沢会計幹事より補足説明がなされた。議長が本件の承認を求めたところ、全員異議なく、本件は承認可決された。

2. 第2号議案 令和6年度第4回評議員会の審議事項の確認

議長より、同日、本会に先立って開催された令和6年度第4回評議員会において、審議承認された以下の7件、

- 1) 学会賞、学術奨励賞の受賞者候補の決定
- 2) 日本農学賞候補者の推薦
- 3) 令和6年度大会の会計報告
- 4) JABEE対応委員会の廃止
- 5) 植物ウイルス病研究会への仮払金の増額
- 6) 規定および細則の改正
- 7) 日本植物防疫協会への学会事務業務委託契約

について説明がなされた。議長の指示により、オブザーバーの染谷庶務幹事長および北沢会計幹事より補足説明がなされた。議長より、理事会での承認を求めたところ、全員異議なく、本議案は承認可決された。

3. 報告事項

議長より職務執行状況の報告として、令和6年度の事業計画に沿って遅滞なく事業計画を進めていることが説明された。

以上をもって、終始異常なく議事が終了したので、議長は閉会を宣言し、17時25分散会した。

令和7年度事業計画書ならびに収支予算書

1. 行事業

- (1) 学会報(英文誌第91巻1~6号, 和文誌第91巻1~4号)を発行する.
- (2) 大会, 部会, 談話会, 研究会等を開催する.
 - 1) 大会: 令和7年3月26~28日 サンポート高松(高松市)
 - 2) 第5回日韓植物病理学会合同シンポジウム: 令和7年3月25日 サンポート高松(高松市)
 - 3) 北海道部会: 令和7年10月9~10日 北海道大学(札幌市)
 - 4) 東北部会: 令和7年9月下旬頃 秋田県立大学(秋田市)
 - 5) 関東部会: 令和7年9月頃 東京農工大学(府中市)
 - 6) 関西部会: 令和7年9月18~19日 京都大学(京都市)
 - 7) 九州部会: 令和7年11月頃 未定(沖縄県内)
 - 8) 第16回植物ウイルス病研究会: 令和7年3月29~30日 倉敷市美術館(倉敷市)
 - 9) 第34回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム: 令和7年3月29日 サンポート高松(高松市)
 - 10) 第24回植物病原菌類談話会: 令和7年3月28日 サンポート高松(高松市)
 - 11) 第59回植物感染生理談話会: 令和7年9月3日~5日 鳥取大学(鳥取市)
 - 12) 令和7年度植物病害診断研究会: 令和7年秋予定 開催場所未定
 - 13) 令和7年度EBC研究会: 令和7年秋予定 開催場所

未定

- 14) 第19回植物病害診断教育プログラム: 令和7年秋予定 九州大学(福岡市)
- (3) 定時総会: 令和7年3月26日 令和6年度事業報告・決算承認および令和7年度理事選任
理事会: 令和7年度第1回(令和7年2月15日) 定時総会議案審議
令和7年度第2回(令和7年3月26日) 代表理事選任
令和7年度第3回(令和7年11月) 令和8年度事業計画・予算承認
評議員会: 令和7年度第1回(令和7年2月) 定時総会議案審議
令和7年度第2回(令和7年3月27日) 令和7年度委員等選任
令和7年度第3回(令和7年11月) 令和8年度事業計画・予算承認
- (4) 学会賞, 学術奨励賞, 論文賞等の選考を行う.
- (5) 大会において学生優秀発表賞の選考を行う.
- (6) 名誉会員, 永年会員の推挙を行う.
- (7) 令和8年度理事候補者(次期副会長候補者)および令和8~9年度の監事候補者の選出を行う.
- (8) 令和8年度理事候補者(次期会長候補者, 次期副会長候補者)を総会へ推薦し, 次期会長候補者, 次期副会長候補者として理事会への推薦を行う.
- (9) 令和8~9年度評議員候補者の選出を行う.
- (10) 日本農学賞, 日本農学進歩賞, 日本学術振興会賞等の受賞候補者の推薦を行う.
- (11) その他

2. 一般会計収支予算書（令和7年1月1日から令和7年12月31日まで）

科 目	2025 年度	2024 年度	(単位：円)
	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	16,325,000	16,577,000	△ 252,000
正会員会費収入	9,149,000	9,415,000	△ 266,000
学生会員会費収入	563,000	527,000	36,000
学部生会員会費収入	32,000	30,000	2,000
外国会員会費収入	16,000	30,000	△ 14,000
準会員会費収入	1,365,000	1,425,000	△ 60,000
賛助会員会費収入	5,200,000	5,150,000	50,000
会報刊行収入	2,533,000	2,613,000	△ 80,000
頒布収入	2,340,000	2,540,000	△ 200,000
広告料収入	178,000	58,000	120,000
著者負担金収入	15,000	15,000	0
事業収入	21,399,000	16,750,000	4,649,000
大会運営収入	16,088,000	10,620,000	5,468,000
部会収入	2,568,000	2,342,000	226,000
談話会・研究会収入	1,753,000	2,870,000	△ 1,117,000
教育プログラム収入	990,000	918,000	72,000
雑収入	203,000	202,000	1,000
預金利息収入	3,000	2,000	1,000
雑収入	200,000	200,000	0
事業活動収入計	40,460,000	36,142,000	4,318,000
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	9,195,000	8,995,000	200,000
印刷製本費支出	5,395,000	5,345,000	50,000
編集費支出	3,800,000	3,650,000	150,000
事業支出	22,345,000	17,582,000	4,763,000
大会支出	16,088,000	10,620,000	5,468,000
部会支出	2,542,000	2,527,000	15,000
談話会・研究会支出	2,343,000	3,336,000	△ 993,000
教育プログラム支出	1,372,000	1,099,000	273,000
学術奨励関係費支出	705,000	750,000	△ 45,000
国際学術交流費支出	400,000	300,000	100,000
情報電子化費支出	824,000	1,122,000	△ 298,000
HP 充実費支出	10,000	430,000	△ 420,000
情報維持費支出	814,000	692,000	122,000
ダイバーシティ推進支援費支出	400,000	400,000	0

広報費支出	100,000	0	
負担金支出	695,000	630,000	65,000
男女共同参画学協会連絡会負担金支出	15,000	10,000	5,000
JABEE 負担金支出	50,000	50,000	0
日本農学会負担金支出	120,000	120,000	0
植物保護科学連合負担金支出	0	0	0
日本微生物学連盟負担金支出	100,000	100,000	0
国際植物保護科学会負担金支出	50,000	50,000	0
国際植物病理学会 (ISPP) 負担金支出	360,000	300,000	60,000
事業運営費支出	1,900,000	1,020,000	880,000
会議費支出	200,000	250,000	△ 50,000
旅費交通費支出	200,000	300,000	△ 100,000
各種委員会関係費支出	1,500,000	470,000	1,030,000
管理費支出	4,980,000	5,010,000	△ 30,000
通信運搬費支出	400,000	400,000	0
消耗品費支出	70,000	100,000	△ 30,000
事務管理費支出	3,190,000	3,190,000	0
印刷費支出	150,000	150,000	0
外部監査管理費支出	300,000	300,000	0
雑支出	870,000	870,000	0
事業活動支出計	41,544,000	35,809,000	5,735,000
事業活動収支差額	△ 1,084,000	333,000	△ 1,417,000
II 投資活動収支の部			
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	0	0
学術事業安定化基金	0	0	0
学術奨励基金	0	0	0
国際学術交流基金	0	0	0
固定資産取得支出	0	1,656,000	△ 1,656,000
投資活動支出計	0	1,656,000	△ 1,656,000
投資活動収支差額	0	△ 1,656,000	1,656,000
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 1,084,000	△ 1,317,000	233,000
前期繰越収支差額	13,108,989	14,686,731	△ 1,577,742
次期繰越収支差額	12,024,989	13,369,731	△ 1,344,742

3. 学会報編集計画案

(1) 編集機関

学会報第91巻の編集は、英文誌 (Journal of General Plant Pathology), 和文誌 (日本植物病理学会報 Japanese Journal of Phytopathology) とともに下記のように岩手大学と秋田県立大学にて行う。

編集事務局：岩手大学農学部

編集委員長：磯貝雅道 (岩手大学)

編集副委員長：藤 晋一 (秋田県立大学)

編集幹事長：八重樫元 (岩手大学)

印刷：英文誌 Springer Nature Singapore Pte Ltd.
和文誌 中西印刷 (株)

発行日：英文誌 1号1月, 2号3月, 3号5月,
4号7月, 5号9月, 6号11月
和文誌 1号2月, 2号5月, 3号8月,
4号11月

(2) 投稿要領

原稿は投稿規程・細則に従って作成し、和文誌については、編集副委員長 (藤 晋一, jgppjpp@iwate-u.ac.jp) 宛にメール送付すること。

英文誌については、ウェブサイト <https://www.editorialmanager.com/jgpp/> にアクセスして投稿すること。

2024年度第3回日本農学会運営委員会議事録

日時：2024年12月9日 (月) 15時～16時05分

場所：ZOOM会議

出席者：

大杉 立会長, 金子豊二副会長, 小崎 隆副会長, 佐藤 秀一監事, 羽藤堅治監事, 伊東明子 (園芸), 高橋由紀子 (樹木医 (代)), 米山香織 (植調), 龍原 哲 (森計), 片岡美喜 (地域経), 岩田洋佳 (育種), 山本和貴 (応糖), 仲井まどか (応動昆 (代)), 矢沢勇樹 (海水), 太田能之 (家禽), 古橋 現 (国地開/フード), 松村一善 (砂丘), 青木直大 (作物), 鈴木雅京 (蚕糸), 春原由香里 (雑草), 中川貴之 (獣医), 染谷信孝 (植病), 陣川雅樹 (森林), 小山寛喜 (水産), 塩出大輔 (水工), 安永円理子 (生環), 齋藤勝晴 (草地), 山本清龍 (造園), 松田二子 (畜産), 神谷岳洋 (土肥), 上吉原裕亮 (熱農), 植山秀紀 (気象), 大浦裕二 (農経), 葛山智久 (農化), 建石邦夫 (農作), 村井正俊 (農薬 (代)), 松脇貴志 (繁殖), 中塚博子 (ペドロ), 青木謙治 (木材 (代)/木加工/木質 (代)), 五月女格 (食料工), 古橋賢一 (農施), 石神靖弘 (農情), 西田和弘 (農木工), 栗田英治 (農計), 杉野弘明 (復興), 林 雅秀 (林経), 黒住圭子 (事務担当)

欠席者：

酒井 徹 (シス農), 堀田和彦 (実農), 高橋輝昌 (森立), 土肥哲也 (生態), 田中 聡 (芝草), 渡邊 学 (動遺伝), 松本浩一 (経営), 吉田 誠 (木保存), 嶺田拓也 (有機)

議長：大杉会長

進行：葛山庶務担当常任委員

議事：

1. 2024年度第2回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について
2. 2024年度事業報告 (案)
3. 2024年度収支決算報告 (案)
4. 2025年度事業計画 (案)
 - (1) シンポジウムテーマ・話題提供募集について
5. 2025年度収支予算計画 (案)
6. 2025年度社員総会および日本農学賞選考会について
7. 新規入会について
8. 2025年度会員 (学協会代表者)・運営委員・常任委員について
9. 2025年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順
10. その他
 - 1) 会員募集について

葛山常任委員より、運営委員の過半数の出席がありこの運営委員会は成立している旨報告され、議題に先立ち大杉会長より挨拶があった。

議事 1. 2024年度第2回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 2. 2024年度事業報告 (案) について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 3. 2024年度収支決算報告 (案) について

松田会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 4. 2025年度事業計画 (案) について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき、第96回日本農学大会は弥生講堂で開催、2025年度日本農学会シンポジウムの開催、2024年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開、(公財) 農学会第24回日本農学進歩賞の共催、各種委員会の開催、その他関連シンポジウム等への後援について説明があった。

(1) シンポジウムのテーマおよび話題提供募集について

古橋企画担当常任委員より資料に基づき説明があった。運営委員会に先立ち行われて理事会で「ワンヘルス (One Health) への農学の挑戦 (仮題)」の内容で話題提供を依頼することが決定された。ワンヘルス (One Health) の概

要について説明がされた。ただ、まだ一般的には知られていない言葉でありシンポジウムを機会に知っていただきたい旨報告された。

話題提供について事務局から依頼をお送りするとの旨報告があった。

議事 5. 2025 年度収支予算計画（案）について

松田会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 6. 2025 年度総会および日本農学賞選考会について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり、今回も対面で開催すること、選考会は昨年同様 12 時 30 分から開始されることが報告された。

議事 7. 新規入会について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき、日本緑化学会の概要等について説明があった。入会は総会の審議事項となり、理事会で総会に諮ることが承認された旨報告された。

議事 8. 2025 年度会員（学協会代表者）・運営委員・常任委員について

葛山庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。なお、2025 年度常任委員は、現常任委員の 3 名（日本農作業学会、日本繁殖生物学会、日本フードシステム学会）に加え、新たに日本応用糖質学会、日本土壌肥料学会、農業農村工学会の 3 名が就任することが報告された。

議事 9. 2025 年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順

葛山庶務担当常任委員よりあみだくじアプリ利用して行うことの説明があり、山本企画担当委員の進行により抽選

が進められた。厳正な抽選により以下のように推薦学会による発表順が決定された。

発表順（以下 15 件）

1. (一社) 日本作物学会
2. (一社) 日本雑草学会
3. (一社) 農業情報学会
4. (公社) 農業農村工学会
5. (公社) 日本農芸化学会
6. (一社) 日本植物病理学会
7. 日本農薬学会
8. (一社) 日本育種学会
9. (一社) 園芸学会
10. (公社) 日本畜産学会
11. 日本ペドロジー学会/(一社) 日本土壌肥料学会
12. (一社) 日本木材学会
13. (一社) 日本応用動物昆虫学会
14. 日本熱帯農業学会
15. (公社) 日本水産学会

10. その他

1) 会員募集について

葛山庶務担当委員より日本農学会は加盟学協会の分担金で運営しており、会員数の減少により運営資金が厳しい状況が続いているとの説明があった。今後、日本農学会へ加盟していただくよう、学術会議の協力学術研団体（農学部門）に入会案内を送る準備していることが報告された。会員募集について何かご提案があれば事務局までお知らせいただきたい旨お願いがあった。

最後に、運営委員会は最後になる山本企画担当常任、葛山庶務担当委員（松田会計担当常任委員は退出）から挨拶があった。

以上